



ありがとう、ロータリアン！ ②0

子どもたちに笑顔の華を咲かせたい



株式会社K A J I N代表取締役

ハヤシ シノブ
林 志英 さん

出身：中国

奨学期間：1990 - 91

学校名：大分大学大学院

世話クラブ：大分 1985 R C

カウンセラーから教わった大切なこと

来日したのは25年前。23歳だった私は6,000円ぽっちのお金とスーツケース1つ、いつか起業したいという大きな夢を持ってやってきました。

来日間もない頃、日中友好協会主催のお花見会に参加し、後にカウンセラーとなる大分1985ロータリークラブ(RC)の柏木淳一さん(1994年に退会)と出会いました。柏木さんに米山記念奨学制度を教えてもらい、面接試験にも奥さま同伴で連れて行ってもらいました。そして試験に合格、学業に専念できるようになりました。

世話クラブの大分1985RCの会員は、家族のように温かい方ばかりでした。家族ぐるみのイベントがよく行われ、私も旅行に連れて行ってもらったり、地区大会に参加したりと、楽しい思い出がたくさんできました。

柏木夫妻は、私を実の娘のようにかわいがってくれ、日本文化を体験できるようにと、結婚式やお葬式など、いろいろな場に連れて行ってくれました。おかげで、TPOに応じた着こなしの大切さを学ぶことができたと思います。日本人にとって、身だしなみを整えることは相手への思いやりであり、ささいなことでも思いやりを忘れない日本の文化を覚えてもらったことは、今の仕事にもつながっています。

忘れられない一通のメール

卒業後は東京で物流会社に就職し、仕事を続けながら、結婚して2人の娘を出産。子育てを通じ、

日本ではお宮参りや初節句、七五三など子どもに関するイベントがたくさんある一方、晴れの日に着せる子ども服のマーケットが非常に貧弱であると感じました。

私は子どもの頃とても貧しく、きれいな服を着た記憶がありません。だからこそ、子どもたちには華やかな思い出をつくってあげたい、王子様やお姫様になる夢をかなえてあげたい、そんな思いで2001年、ネット通販サイト「フォーマル子供服専門店K A J I N」を創業しました。K A J I Nは華(はな)の人という意味で、子どもたちに笑顔の華を咲かせることを経営理念に掲げました。

最初は商品をどこから仕入れたらよいかわからず、見つけても実店舗がないため卸してもらえなかったり、子育てで外出もままならず困難の連続でしたが、フォーマル子ども服の業界を変えたいと無我夢中でした。

創業して5年たったある日、お客さまから一通のメールをもらいました。その方には難病を持つ小学生の娘さんがいて、親戚の結婚式に参列するため、当社からピンクのドレスを購入されました。式では思い出に残る写真をたくさん撮ったそうですが、まもなく娘さんは亡くなり、天国に送りだす日、大好きだったそのドレスを着せたのだそうです。「ドレスのおかげでいい思い出ができました」との言葉に、涙を止めることができませんでした。

この仕事が天職だと思った瞬間であり、自分の仕事が人の役に立っていると実感した出来事でした。



エッセイ出版記念パーティーで子どもたちと

米山学友の^{ハヤシエ}林志英さんは12年前、当時は珍しかったフォーマル子ども服専門のインターネット販売会社を創業しました。海外で自ら買い付けてきたドレスや、自社で企画制作したフォーマルウェアを提供し、子どもたちの「晴れの日」の思い出づくりに貢献しています。新しいマーケットを開拓した起業家として数々の賞にも輝く林さんは「生まれ変わるチャンスくれたのはロータリー」と語り、その感謝の思いとともに寄稿してくれました。

世界中にフォーマル子ども服を広めたい

事業が軌道に乗るとともに、自分が生まれ変わるチャンスくれたロータリーに恩返しすべく、米山学友を中心に創立された東京米山友愛RCの会員になりました。クラブはさまざまな活動を行っていますが、その一つとして、不用になった当社のドレスを回収し、クラブの支援とネパール出身の会員の協力で、同国の小学校に寄付しています。ドレスを着た子どもたちは皆、お姫様になった気分です。とても喜んでくれました。

また、当社では子どもを持つ女性を積極的に雇用し、働きやすい職場づくりを心がけています。仕事と育児の両立の難しさは、私自身が経験したことです。スタッフが生き生きと仕事を続けられるのは家族の理解があってこそ、私はスタッフの家族も会社の一員だと認識しています。このような人生観、価値観は日本で、ロータリーの影響を受けて形成されたものです。先輩ロータリアンは、私に無償の愛を注いでくれました。人としての手本を示してくれました。米山奨学生になったことで生きる目標ができたことは、人生最大の転機でした。

その感謝を込めて昨年夏、自伝的エッセー本『なぜか好かれる「ココロ美人」になる5つの幸せオーラ』（学研パブリッシング刊）を出版しました。その中で、米山記念奨学金についても触れています。

私の夢は、人生の大切な日を彩るフォーマル子ども服を日本中、そして世界中に広めることです。世界中の人の役に立てることを願い、ロータリーから教わったことを肝に銘じて仕事に精進していきます。私は今、ロータリアンになれたことを、心から誇りに思っています。

大分1985RC会長
高山泰四郎氏から一言

志英さんは、素直で明るい奨学生でした。会員みんなから愛され、私も家族ぐるみで交流していました。先日、久しぶりに例会に来て卓話をしてくれましたが、新しい分野を開拓して成功を収め、女性経営者として立派に成長した姿に、皆、あらためて感心し、お世話したかいがあったと喜びを感じているところです。これからロータリアンとしても活躍し、日中両国の民間外交の懸け橋になってほしいと、会員一同、期待しています。



ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。
TEL：03-3434-8681 FAX：03-3578-8281
Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp

恩恵の倍返しだ！ —— 台湾米山学友会総会開催 ——

台湾米山学友会（中華民国扶輪米山会）の総会が12月14日、台北市で開催されました。今回は日本で流行したドラマの決め台詞をもじった「恩恵の倍返し」をテーマに、米山学友67人、日本の参加者を合わせて120人以上が出席しました。学友会・分会の活動報告のほか、台湾米山学友会が日本のロータリーへの恩返しとして実施している「日本人若手研究者奨学金」の奨学生2人に、林維宏理事長から奨学金を授与。奨学生は、前年度奨学生とともに感謝のスピーチをしました。また、第3520地区（台湾）の2015-16年度ガバナーノミニーで米山学友の^{リンカミン}林華明さん（1984-86 / 東京世田谷RC）が同学友会歴代理事長に紹介されました。



学友会の新会員にバッジを着ける
板橋敏雄・米山記念奨学会理事長